

福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（4月）

留学先：東呉大学

こんにちは。3回目となる今回の月例報告書では、私が現在東呉大学で受講している授業について詳しく説明しようと思います。

| Soochow University 共有 | | | | | |
|-----------------------|-------------------------|-------------------------------|-----------------|--------------------------|-----------------|
| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
| 08:10 1 10:00 | | | | | |
| 10:10 2 12:00 | 初級華語 II S119 | | | 日本文化論 R1006 | 初級華語 II S119 |
| 13:10 3 15:00 | Gender Studies D0101 | | 中国文化研究 D0314 | | |
| 15:10 4 17:00 | | Global Public Policy D0501 | | Student Mobility B607 | |

一般的に、台湾の大学では1単位=50分授業で計算していて、通常一回の授業は10分休みを含めての2時間(2単位)、または3時間(3単位)行います。台湾と日本の単位は1単位=1単位で交換出来ます。私が東呉大学で受講している授業は中国語・Gender Studies・Global Public Policy・中国文化研究・日本文化論・Student mobility: perspectives of intercultural competences の六つです。基本的に全て英語開講科目を選択しました。

私の受けている授業はたまたま先生が全員台湾人ですが、科目によっては台湾人以外の先生が授業を行うこともあります。東呉大学の交換留学生は特定の学部には属する

のではなく、国際交流所属として、全ての学部の授業を受けることができます。今回は私の受けている授業の内容を紹介します。今回は、中国語・Gender Studies・Global Public Policy の三つの授業について紹介しようと思います。この月例報告書が東呉大学に留学したい学生さんの科目選びの助けになれば幸いです。



【中国語】

東呉大学では、初級華語 i・ii / 中級華語 i・ii の中から自分でレベルを選択して中国語の授業が受けます。交換留学生は必修の授業です。一つのコースにつき週に2日、合計5時間の授業で、10時~12時、または

10時~13時までの授業です。授業は少人数(10人程度)で行われ、教科書や板書の文字は中国本土で使われる簡体字ではなく台湾で使用される繁体字です。(個人的に繁体

字の方が日本語の漢字に近いので、日本人にとっては内容や文法が理解しやすいです。) 各章ごとに小テスト、中間・期末試験では筆記試験の他に口頭試験も行われます。

【Gender Studies】

中国文学部4年生対象の授業ですが、英語開講科目です。主にジェンダー・性差別・ジェンダーマイノリティなど、性について社会的な観点から学ぶ授業です。生徒は必ず、授業の前半に2人もしくは1人で授業の内容についてのプレゼンテーションを行い、授業の後半は生徒のプレゼンに沿った内容から先生が問題提起をし、それについてクラス全体でディスカッションをします。中間試験はありませんが、5月後半に英語で3枚ほどのレポートを課題として提出します。

【Global Public Policy】

政治学部3年生対象の授業です。この授業は50人以上の生徒が受講していて、東呉大生よりも交換留学生が多く参加しています。授業は主に現代の国際政治・政策に関連した内容です。貧困・難民・人身売買・ドラッグ・環境問題など、広い範囲での国際問題について講義を受けた後、生徒間でのディスカッションを行ったり、講義の内容に関連した映画を見たりします。課題は、2009年のリーマン・ショックやその前後のアメリカの金融にまつわる映画についての感想のレポート提出や、期末試験の最終課題として1~4人のグループで国際政策の内容に関連したレポートを提出することが求められます。

今回は、東呉大学で私が受講している授業から三つ紹介しました。どの授業の先生もとても優しいので、分からないことを質問しても親身になって答えてくれます。また、私が英文学部の授業を取っていないせいか、英語開講科目で教える先生に台湾人の先生が多いことも新鮮でした。日本の大学も、もっと日本人の先生が英語を使って専門の授業をしてもいいのに、と感じることも多かったです。加えて授業で感じるのはディスカッションの多さです。英語開講科目だからかもしれませんが、先生の講義を大勢の生徒で聴く、というよりは先生から(もしくは生徒から)投げかけられた質問に対して生徒間で論議するスタイルの授業が多いです。もちろん東呉大学の生徒は中国語で行われる授業も受けているので、そちらは日本の大学と同じような授業も多いのかも知れません。

台湾では4月末が中間試験期間です。そして五月からは第四クォーターがスタートします。気が付いたらあっという間に台湾での生活の半分が過ぎていたことに驚きです。残り2ヶ月の留学生活、授業だけではなく日々の生活の中で得られることを自分に還元できるよう頑張ろうと思います。次回の月例報告書では残り三つの授業について説明します。それではまた次回の報告書でお会いしましょう！